

新校設置計画

平塚方面 中等教育学校 (大原高等学校)

平成19年3月

神奈川県教育委員会

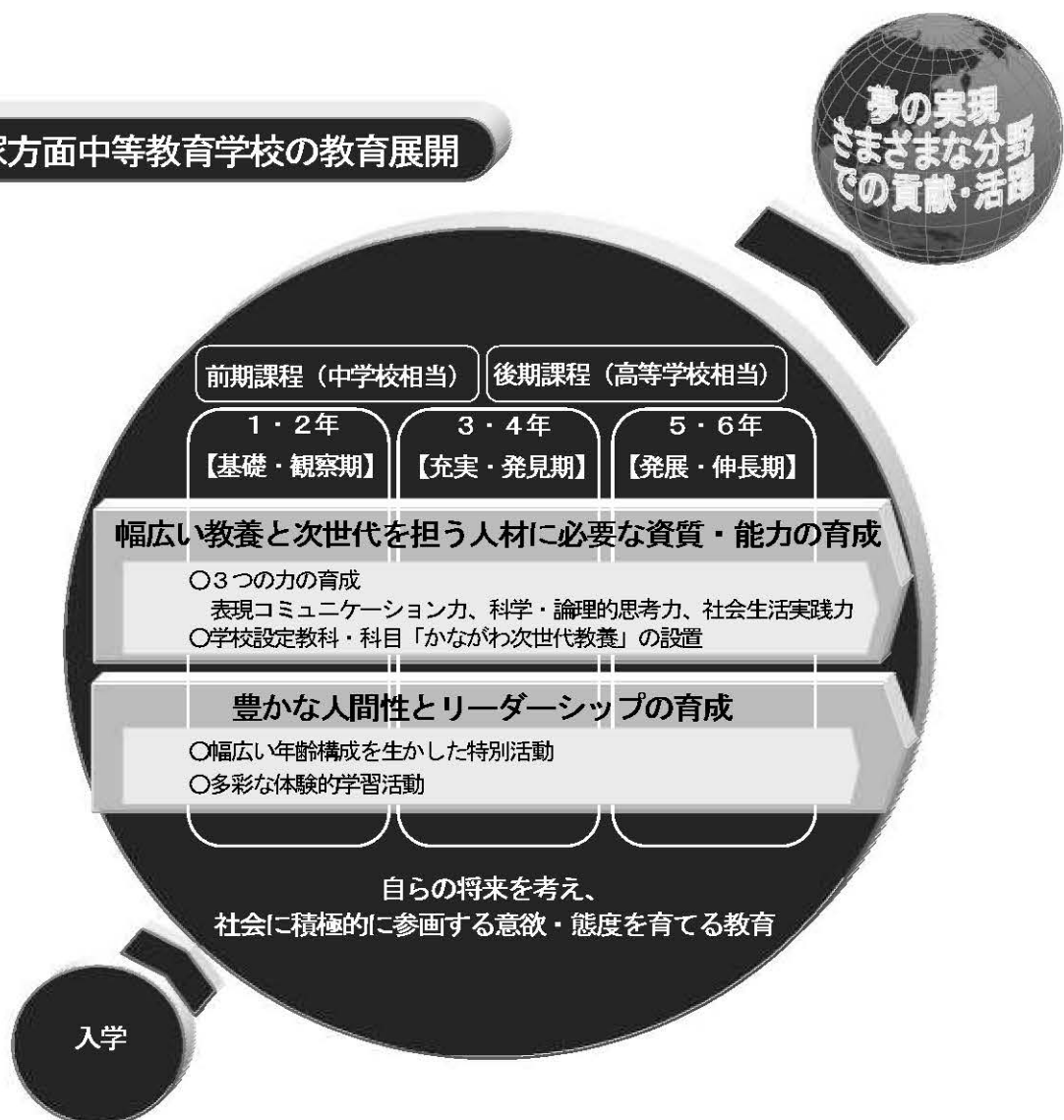
1 再編対象校、設置場所、開校年度、設置形態

- 再編対象校 大原高等学校
- 設置場所 平塚市大原1番13号（大原高等学校敷地）
- 開校年度 平成21年度（平成25年度までは大原高等学校を併設）
- 校 種 6年制による中等教育学校
- 学校規模 960名（各年次4学級160名、全24学級規模）
- 学 期 2学期制
- 授業時間 45分7校時を基本とした弾力的運用

〈 日課表 〉（予定）

ショートホームルーム	8:40 ～ 8:45	5分
1～4校時	8:50 ～ 12:20	授業45分×4 休憩10分×3
昼休み	12:20 ～ 13:05	45分
5～7校時	13:05 ～ 15:40	授業45分×3 休憩10分×2
ショートホームルーム	15:40 ～ 15:45	5分

平塚方面中等教育学校の教育展開



2 設置の目的

- 6年間の一貫した教育課程や学習環境の中で、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性の伸長を図る。
- これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備え、よりよい社会の構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成する。
- 学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやりの心を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる、豊かな人間性とリーダーシップを備えた人材を育成する。

3 教育活動展開の方針

(1) 中等教育学校のしくみを生かした教育

6年間継続して学ぶ中等教育学校のしくみを生かし、発達段階に応じた3期の設定や、中等教育学校の特例の活用等を行う。

○ 発達段階に応じた3期【2年-2年-2年】の設定

6年間を、発達段階に応じて2年ごとに「基礎・観察期」「充実・発見期」「発展・伸長期」の3期に分け、学習内容の確かな定着を図りながら教育活動を展開する。(→3ページ)

○ 6年間を見通した充実した教科指導【中等教育学校に適用される特例の活用】

後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行する等、中等教育学校に適用される特例を活用し、学ぶ意欲や、総合的な応用力を育成する独自の教科指導を展開する。(→3ページ)

○ 6年間という期間を生かしたきめ細かな支援体制の確立

心身ともに著しく成長する6年間を、指導観察記録等を活用し、きめ細かく指導するとともに、リトルチューター制（後期課程生徒による前期課程生徒に対する支援体制）を導入する。(→4ページ)

(2) 社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育

社会を支え、未来を切り拓く意欲にあふれる人材を育成するために、キャリア教育を基盤として、教科活動や特別活動において、さまざまな分野で貢献・活躍するために必要な力を育む教育を行う。

○ 幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育成する教育

幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育成する教育活動を展開する。

◆ **3つの力**：「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」の育成・伸長を重視した教科学習指導を展開する。(→5ページ)

◆ **かながわ次世代教養**：未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成するため、IT活用、英語コミュニケーション、伝統文化・歴史、地球環境の分野を6年間体系的・継続的に学習する教養教科・科目として「かながわ次世代教養」を設置する。
(→6ページ)

○ 豊かな人間性とリーダーシップを育成する教育

さまざまな相手を思いやる心を持ち、自らの役割を進んで果たす未来を切り拓く意欲や行動力を伸長するため、特別活動や学校外の機関との連携による社会体験活動、各界のリーダーによる特別講座等、多彩な体験的学習活動を展開する。(→7ページ)

< すべての教育活動の基盤 >

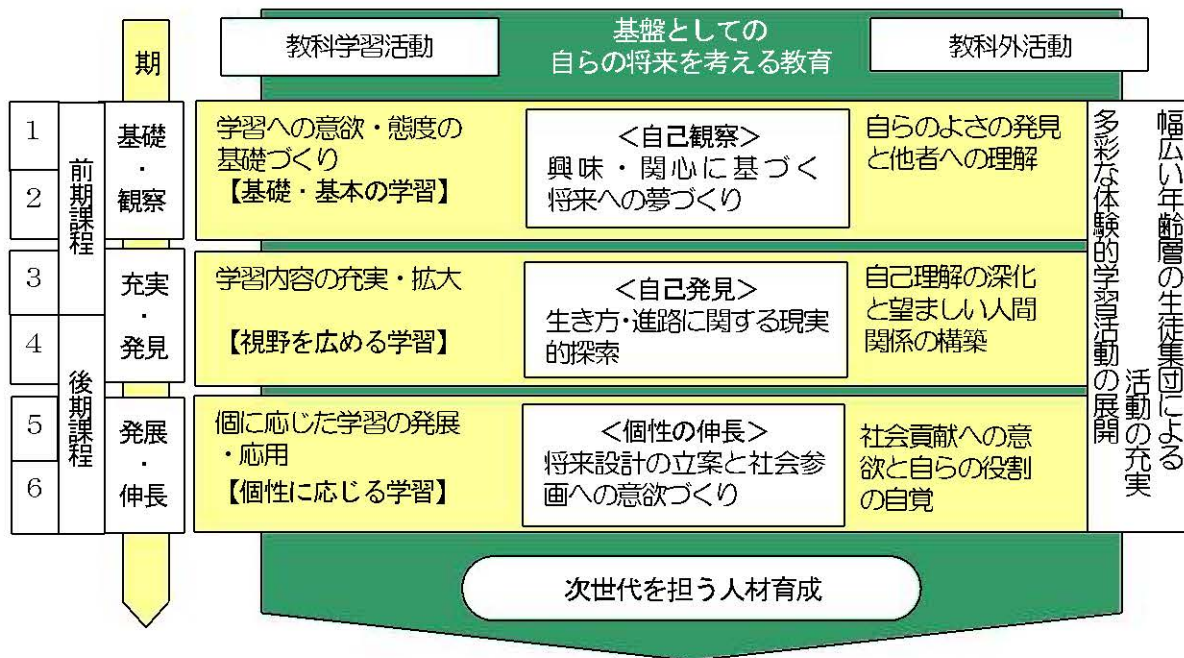
○ 自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育

生涯にわたり自己の在り方生き方を考え、積極的に社会に参画し、これからの社会を支える意欲ある人材を育成するために、自らの将来を考える教育（「キャリア教育」）を基盤とした教育活動を展開する。(→7ページ)

4 中等教育学校のしくみを生かした教育

(1) 発達段階に応じた3期【2年-2年-2年】の設定

6年間を2年ごとに3期に分け、各期における学習内容の確かな定着を図りながら、発達段階に応じた教育活動を展開する。



(2) 6年間を見通した充実した教科指導【中等教育学校に適用される特例の活用】

○ 後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行して指導

中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例を活用し、各教科の特質に応じて効果的な学習を行うため、後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行することを積極的に導入し、学ぶ意欲や、総合的な応用力を育成する独自の教科指導を展開する。

＜ 内容の一部を移行して学習する教科・科目一覧 ＞（予定）

課程	前期課程（中学校相当）	後期課程（高等学校相当）
教科 科目	国語	国語総合
	社会	現代社会
	数学	数学Ⅰ
	理科	理科総合B
	英語	英語Ⅰ

○ 前期課程における選択教科の拡大

中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例を活用し、生徒の特性等に応じた多様な学習活動を行うため、前期課程から幅広く選択教科を導入する。

< 前期課程に設定する選択教科の例 >

ことばの力

会話、討論、発表などの活動を通じて、コミュニケーションの基盤である言語力（日本語・英語）と、論理的思考力を育成する。

科学実験室

科学実験などを中心に行う体験的な授業によって、科学の楽しさを実感するとともに、試行錯誤して問題を解決する力、工夫する発想力、過程・成果を論理的に表現する力を育てる。

(3) 6年間という期間を生かしたきめ細かな支援体制の確立

○ ガイダンス、カウンセリング体制の充実

一人ひとりの将来を見据え、6年間を通じた指導観察記録を活用し、目標に応じた学習計画・科目選択のためのカリキュラムガイダンス、進路指導などのキャリアガイダンス、生活面や心理面での課題に対応するカウンセリングなどの体制を充実する。

○ チューター制・リトルチューター制の導入

入学年度ごとのホームルーム編成を行い、複数担任制を導入するとともに、生徒一人ひとりに対し日常的に助言や支援を行う教員によるチューターを配置し、複数担任との連携を図りながら、生徒の学びや自己実現をきめ細かく支援する。

また、後期課程の生徒が前期課程の生徒に対して、学習や学校生活について相談を受けたり助言したりするリトルチューター制を設ける。

5 社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育

(1) 幅広い教養と次世代を担う人材に必要な資質・能力を育む教育

◆3つの力の育成

6年間の継続した教科学習指導を通じ、次世代を担う人材に必要な次の3つの力の育成を重視した教育課程を編成する。また、発表やディベート、実験・実習など、生徒の主体的な学習活動を多く取り入れた授業展開により、興味・関心を引き出し、学ぶ意欲と率先して取り組む行動力を育成する。

<3つの力の内容と特色ある選択教科・科目例>

育成する力	内容	特色ある選択教科・科目例
表現コミュニケーション力	相手の主張や状況などを的確に把握し、自己の考えや行動をその場にふさわしい方法で表現し、相手に伝えることのできる力	ことばの力 暮らしの英語 発展英語 中国語入門 フランス語入門 など
科学・論理的思考力	科学的根拠に基づく考察などにより、さまざまな事象を論理的に理解し、順序立てて説明する力	科学実験室 至高の数学 解析学特論 など
社会生活実践力	さまざまな社会現象を多面的にとらえる知識や技能を持ち、課題解決のために活用できる力	時事探究 生涯スポーツ 歴史精講 など

特に「表現コミュニケーション力」の育成に重点をおいた特色ある選択教科や学校設定科目を設置する等カリキュラム展開に特色を持たせ、さまざまな分野で活躍し、実りある社会生活を築くために必要な、表現力や豊かな感性、独創性を伸長する。

<「表現コミュニケーション力」を育成する特色ある科目例>

ことばの力 (再掲)

会話、討論、発表などの活動を通じて、コミュニケーションの基盤である言語力（日本語・英語）と、論理的思考力を育成する。

発展英語

時事英語や各種の英語表現を学ぶことにより、さまざまな技能を身につけ、英語力の強化を図る。

◆学校設定教科・科目「かながわ次世代教養」の設置

神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かしつつ、地球規模で環境や歴史文化、科学技術などを考える視点を持ち、適切に情報を活用し、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を育成する。このために、IT活用学習、英語コミュニケーション学習、伝統文化・歴史学習、地球環境学習を中心に、段階を踏んだ体系的な学習内容、生徒が自ら学び方を学ぶ能動的な学習形態により、6年間継続した学習を行う。

＜「かながわ次世代教養」学習活動のイメージ＞

年 次	1・2年	3・4年	5・6年
期	基礎・観察期	充実・発見期	発展・伸長期
目 標	基礎知識と技能の習得 生徒が自ら学ぶ学習活動を展開する上で基盤となる基礎知識や各種調査の基本的手法を習得するとともに、各分野への関心意欲を引き出す。	理解の深化と課題発見 現代社会の事象を考察する力を深め、多様な調査法、発表方法を実践的に習得し、自己や社会の在り方について課題を発見する。	研究活動と社会への発信 社会に発信することを前提として、自ら設定した課題について、学校外の各種機関などとの連携も図りながら研究を行い、社会参画への意欲を高める。
学習分野	IT活用 英語コミュニケーション 伝統文化・歴史 地球環境	全ての分野を 活用する 課題学習	卒業研究

＜「かながわ次世代教養」の学習分野＞

IT活用

情報社会の進展に積極的に対応し、ITを最大限に活用していく意欲と能力を養う。

英語コミュニケーション

国際社会の進展に積極的に参画し、英語コミュニケーション能力を最大限に活用していく意欲と能力を養う。

伝統文化・歴史

神奈川や日本の伝統文化・歴史に関する具体的な事柄や事象を多面的・多角的に考察するとともに、地球規模で伝統文化・歴史を考える視点を持ち、多様な文化や歴史を理解し尊重することで、問題解決的な手法によりこれからの時代を創造していく意欲と能力を養う。

地球環境

神奈川や日本、世界の自然・科学・環境に関する具体的な事物や現象を多面的・多角的に考察するとともに、地球規模で自然・科学・環境を考える視点を持ち、課題を見いだし、問題解決的な手法によりこれからの時代を創造していく意欲と能力を養う。

(2) 豊かな人間性とリーダーシップを育成する教育

○ リーダーシップ特別講座の開講

自ら進んで社会に貢献し、道を切り拓く意欲や行動力を伸長するため、さまざまな分野で活躍しているリーダーについて学んだり、直接話を聞いたりする特別講座を開講する。

○ 校外機関との連携による学習活動、研究活動の充実

学校外の教育資源の活用や専門的な講師による先端的な内容、専門性の高い内容などの指導を通じて、より質の高い学習・研究内容に触れる機会を拡大する。

○ 勤労観・職業観を高め、これからの社会の中での自己の生き方を考える活動

神奈川のさまざまな産業や職場の見学、働く人々との交流を通じ、視野を広め、現実的な視点で自己の生き方や勤労観・職業観に対する認識や理解を深める。

○ 多様で活気ある生徒会活動

幅広い年齢層の生徒同士の交流を通じて、豊かな人間性やリーダーシップの育成が図れるよう、生徒の主体的な活動により運営する場を多く設定した多様で活気ある生徒会活動を展開する。また、前期課程についても運営能力等を伸長できるよう「前期生徒会」を設置する。

○ 幅広い地域・国際交流活動

学校や自宅を含む地域の幅広い人々や、海外姉妹校生徒、留学生とのさまざまな交流（協同作業や学習ボランティア等）を通じ、多様な人々の立場や考え、異文化等を尊重し理解する意欲や態度を育成する。

(3) 自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育

○ 6年間で育成する能力

積極的に社会に参画し、これからの社会を支える意欲ある人材を育成するために、自己や職業・勤労に対する理解を深め、自らの将来を考える教育（「キャリア教育」）を基盤とした教育活動を展開し、キャリア発達に必要な諸能力（「自己教育能力」「人間関係能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」）の育成・伸長を図る。

○ 自ら考え、学ぶ意欲を引き出す取組

発達段階各期の目標に応じた各教科指導や特別活動における取組に加え、「総合的な学習の時間」においては、6年間を通じてキャリアプランニング（自己や職業に対する現実的理解に基づき、将来設計や、その実現に向けての取組）を重点的に展開する。

また、6年間の生徒一人ひとりの発達段階に応じたキャリアガイダンスやキャリアカウンセリング等、進路に関する現実的模索を支援することにより、進路実現に必要な能力や意欲を引き出し、さまざまな分野でリーダーシップを発揮する意欲と能力の育成を図る。

＜社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む多彩な体験的学習活動例＞

年次	1・2年	3・4年	5・6年
期	基礎・観察期	充実・発見期	発展・伸長期
活動例	〈1年次〉 ○入学式 ○オリエンテーション合宿 〈2年次〉 ○産業体験合宿 ○職業体験Ⅰ	〈3年次〉 ○イングリッシュキャンプ ○自己発見チャレンジ週間 〈4年次〉 ○リトルチューター研修 ○職業体験Ⅱ	〈5年次〉 ○研修旅行 ○大学・研究機関訪問、就業体験 〈6年次〉 ○かながわ次世代教養研究発表大会 ○卒業式
	○体育祭 ○文化祭 ○合唱コンクール ○芸術鑑賞教室 ○各種施設などの見学、交流体験 ○企業・大学等研究機関との連携講座 ○ボランティア活動 ○部活動合宿 ○生徒会リーダー合宿 など		

社会を支え、未来を切り拓く意欲・能力を育む教育活動

中等教育学校のしくみを生かした教育



夢の実現 さまざまな分野での貢献・活躍

(1) 基礎・観察期（1年次・2年次）

○ 教科学習

少人数・習熟度別学習の一部導入により【基礎・基本の学習】を徹底するとともに、中等教育学校に適用される教育課程の基準の特例（後期課程の学習内容の一部を前期課程に移行、選択教科の拡大）を最大限に活用し、興味・関心や進路希望に対応した学習が展開できるよう幅広い選択教科を設置することによって、主体的に学ぼうとする意欲を引き出す。

「かながわ次世代教養」では、少人数学習により4つの分野の基礎知識・技能を習得する。

○ 特別活動

「自らのよさの発見と他者への理解」を目標として、基本的生活習慣の確立と生活態度の育成をめざし、学級活動を基盤とした特別活動の中で人間関係形成能力の基礎を育む。

＜特色ある特別活動の例＞

オリエンテーション合宿（1年次）

6年間の学校生活のガイダンスとして行い、集団生活の中で、生徒同士の相互理解とそれぞれの果たす役割に対する自覚を育てる。

○ キャリア教育

人間関係構築の基礎となる自己理解をふまえて、将来の社会参画のための社会観・職業観を育成し、興味・関心に基づく将来への夢づくりをする。

＜特色あるキャリア教育の取組の例＞

産業体験合宿（2年次）

神奈川県内のさまざまな第一次産業について、見学や体験作業を通じて理解を深めるとともに、自然と人間、産業との関わりについて多角的な視点で考察する力を養う。

3期共通の活動

○ 学級活動・ホームルーム活動

入学年次別に学級を編成し、複数担任制により、生徒一人ひとりの状態を把握し、人間関係形成能力の育成基盤として個と集団との望ましい関係や、社会の一員としての自覚を深めることができるようきめ細かく指導する。

○ 生徒会活動・部活動

幅広い年齢層の生徒同士の交流を通じて、豊かな人間性やリーダーシップの育成の場とすることができるよう、生徒の主体的な活動により運営する場を多く設定する。

生徒会活動については、前期課程においても運営能力を伸長する場として、「前期生徒会」を併せて設置する。

部活動については、活動内容等により異なるが、原則として1年次～6年次までの合同活動が図れるよう配慮する。

(2) 充実・発見期 (3年次・4年次)

○ 教科学習

校外機関との連携や学校外での学習活動を積極的に導入することにより【視野を広める学習】を展開する。また、後期課程の単位制の特性を生かし、一人ひとりの興味・関心に対応できるよう多様な選択科目を設置し、個性や進路に応じた学習計画を主体的に作成し学ぶ力を育成する。

「かながわ次世代教養」では、3年次・4年次合同グループ編成での課題学習等により、多様な調査・研究手法を実践的に身につける。

<特色ある学習活動の例>

生徒一人ひとりの時間割の作成(4年次以上)

後期課程は単位制で学年区分がないため、同じ科目を選んだ年齢の異なる生徒が一緒に学習することになる。きめ細かな履修ガイダンスや個別相談を受けながら、能力や興味に応じて3年間を見通した各自の学習計画を立案し、一人ひとりが時間割を作成する。

※ 学習内容の一部を前期課程に移行している科目は全員が履修 学校外の学習成果による単位認定の促進(4年次以上)

大学・専修学校などと連携して行う学習活動の成果や、実用英語検定など技能審査の成果、ボランティア活動、スポーツ・文化活動といった学校外での学習成果による単位認定を積極的に行い、主体的な学習活動を促進する。

○ 特別活動

「自己理解の深化と望ましい人間関係の構築」を目標として、自立と他者との協調を推し進め、下級生の支援をする一方、上級生に助言を仰ぐなど、さまざまな立場で集団行動に参加することを通して、よりよい人間関係やリーダーシップについて理解を深めるとともに、行動する力を育む。

<特色ある特別活動の例>

リトルチューター研修(4年次)

下級生の学習や学校生活について相談を受け、助言するなど支援するとともに、学校や社会のさまざまな活動場面で、進んで役割を果たす力を育成する。

○ キャリア教育

自己理解を深めるとともに将来に向けての目標を定め、生き方・進路に対する現実的探索を行う。

<特色あるキャリア教育の取組の例>

自己発見チャレンジ週間(3年次)

「かながわ次世代教養」をはじめとする前期課程のさまざまな学習活動のまとめや、後期課程における学習活動への意欲を喚起する機会として、また生徒自身の興味・関心や進路に応じ、将来の職業選択や自己の在り方生き方に対する理解を実践的に深めることができるよう、その成果を発表することを前提として、学校生活を離れ、集中的な調査・研究、体験的学習活動を行う。

(3) 発展・伸長期 (5年次・6年次)

○ 教科学習

発展的、応用的な多様な選択科目を設置し【個性に応じる学習】を可能にする。

「かながわ次世代教養」では、各自が設定する研究内容によって、5年次・6年次合同で組織するゼミナールに所属し、6年間の学習活動のまとめとしての卒業研究に取り組むことで、進路希望に対応し、自己実現に向けた意欲的な進路選択を可能にする応用力を育成する。

<特色ある学習活動の例>

多様な選択科目の設置 (主に5年次・6年次)

生涯スポーツ

ニュースポーツ (ソフトバレー等) や日常的に取り組める多様な種目の実践を通して、スポーツの楽しさ・喜びを体験しながら、より深い知識や技能を習得する。

時事探究

政治・経済・国際問題など、新聞・ニュースで取り上げられるさまざまな事象に目を向け、国際社会の中で生きるための思考力を培い、自覚を養う。

「かながわ次世代教養」卒業研究 (5年次・6年次)

I T活用、英語コミュニケーション、伝統文化・歴史、地球環境の4つの分野を総合的に学ぶことで身につけた幅広い知識と多角的な視点、多様な調査手法を活用し、一人ひとりがテーマを決め、5年次から6年次の夏にかけて卒業研究を行う。研究成果については、制作物 (論文や作品) の提出と発表を全員が行い、社会へ発信し、中等教育学校での学びのまとめとする。

○ 特別活動

「社会貢献への意欲と自らの役割の自覚」を目標として、社会の一員としての自覚や責任を持ち、企画・実行・総括を集団や社会の中で発揮できる力や理想を追い求める態度を育む。

<特色ある特別活動の例>

研修旅行 (5年次)

海外を含めて複数のコースを設定し、生徒一人ひとりの興味・関心に応じてコースを選択し参加する。研修先では、インターンシップやインタビュー等多くの人との交流等、体験的な活動も盛り込んだ研修を行う。

○ キャリア教育

社会貢献に向けての意識と自己の役割を自覚し、自己の将来設計に対して具体的な取組を行い、将来設計の立案と社会参画への意欲づくりを行う。

<特色あるキャリア教育の取組の例>

大学・研究機関訪問、就業体験 (5年次)

進路希望や興味・関心に応じて、自己実現に向けた現実的な模索を行うため、学校や職場等を訪問し、現場の厳しさを知るとともに、実現のためのアドバイスを得る。

7 中等教育学校での学習活動と進路例

Aさんの場合 小学校時代から新聞をよく読んでいた。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	職業体験Ⅰ（インタビュー）で、新聞記者の話を聞き、人に伝えたい気持ちや、世の中を良くしたいという熱い気持ちを知り、ますます新聞をよく読むようになる。また、社会の動きに関心が強まり、社会科を中心に教科学習にも主体的に取り組めるようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	生徒会リーダー合宿で生徒会新聞発行を提案し認められ、新聞同好会を立ち上げる。地域の取材も行い自治会等へ配布することで、学校と地域の相互の理解が進むのではないかと意欲的に取り組む。また、校内でもさまざまな生徒や先生の話聞くことで、物事を多面的にとらえることの重要性を実感する。 将来は、報道関係の仕事がしたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	インターンシップ等で報道関係者から話を伺い、広く社会現象をとらえ考察するためには、幅広い分野の素養や高度な語学力の習得が重要であることに気づき、「時事探究」等多様な学校設定科目や大学との連携講座を受講し、興味・関心が持てる分野を広げることに努めている。 社会科学系の大学へ進学し報道関係へ就職したいと考えている。

Bさんの場合 小学校時代は地球温暖化が気になりでリサイクルに興味があった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	夏休み特別講座で訪問した日本科学未来館の展示を見て、エコカーやエコ住宅等、環境保護に対するさまざまな積極的アプローチがあることを知り、興味を持つようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	「かながわ次世代教養」のグループ研究で自然エネルギーの活用について取り組み、大学や企業の研究機関を訪問し、今後はエコロジー関連産業の重要性が増すことを実感する。職場体験では、住宅メーカーでエコ住宅の開発や展示場での営業現場を見学する。 将来は、エコ住宅に関わる仕事がしたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	大学や専門学科高校等との学校間連携講座を活用し、住宅に関する理解を深める。また、大学の研究室を訪問して、人が快適に過ごせる環境デザインのためには、建築に関わる知識・技能はもとより、幅広い教養が必要であることを知る。「かながわ次世代教養」卒業研究ではエコ住宅について取り組み、発表会では保護者からコスト面等で質問を多く受け、さらに視野を広めることができた。 将来は、エコ住宅に関わる研究を行いたいと考えている。

Cさんの場合 小学校時代は図画工作が得意だった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	「総合的な学習の時間」（キャリアプランニング）での国際交流活動で、日本の絵巻について研究しているフランスからの留学生の話を聞き、絵巻の価値について初めて知るとともに、絵について広く興味を持つようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	「かながわ次世代教養」での伝統文化・歴史分野のグループ研究では、日常的に親しんでいる西洋絵画について取り組み理解を深める。また、選択教科・科目を利用してフランス語を学び始める。自己発見チャレンジ週間を利用して、明治以降、日本での西洋絵画の影響等について研究する。 将来は、西洋絵画の研究に取り組みたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	留学の単位認定制度を利用し、卒業年度を遅らせることなくフランスへ1年間留学する。帰国後も、フランス語や英語、美術、世界史関連の選択科目を中心に選択するとともに、大学や専門学校との連携講座を積極的に受講し、いずれはフランスの大学へ留学したいと考えている。 大学では学芸員の資格を取得し、大学卒業後、美術館等で働きながら留学準備をしたいと考えている。

Dさんの場合 小学校時代はお祭りに興味があつた。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	「かながわ次世代教養」で伝統文化・歴史分野の現地調査の楽しさに目覚める。また、さまざまな交流活動を通じて、人の役に立ちたいという思いも強くなる。 民俗芸能について知りたいと考えるようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	自己発見チャレンジ週間を利用して、民俗芸能の調査に訪れた山間部の老人から民俗芸能の伝承の難しさと、過疎地の暮らしの厳しさを聞き、自分にできることを考える。 将来は、過疎地に暮らす人々の命を守る仕事につきたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」の卒業研究では、ある民俗芸能伝承問題について取り組んだが、直接的に人の役に立つ仕事がしたいと思い、過疎地医療に力を入れている大学の医学部を訪問し話を聞く中で、医療機関の不足に悩む地方で医療に従事したいと強く思うようになる。 将来は、地方の小都市で伝統文化を守りながら医療に従事したいと考えている。

Eさんの場合 小学校時代は、好奇心旺盛でさまざまなことに興味をもっていった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	産業体験合宿や職業体験Ⅰ（職業人インタビュー）等で、さまざまな仕事やそれに生き生きと取り組んでいる人達に出会い、勉強やスポーツでも基礎基本が大切なことに気づき、毎日の学校生活に懸命に取り組むようになる。 「かながわ次世代教養」では、伝統文化・歴史や地球環境分野で基礎知識や調査方法について学び、身近な環境に対する興味が深まった。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	学校で紹介された校外のボランティア等にも参加し、地域団体や研究機関の学習会への参加を通じ、さまざまな環境に対する考え方等を知り、理解を深めると共に、具体的に自分にできることを考え始める。 将来はよりよい都市環境をつくる仕事につきたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」の卒業研究では、都市環境について取り組み、ボランティア活動も継続した。また、学校設定科目や大学連携講座等で広く環境等について学び、環境問題に取り組むNPOにも参加している。 卒業後は、地元自治体等へ就職し、広い意味での地域環境をよりよくする仕事に携わりたいと考えている。

Fさんの場合 小学校時代は体育が好きで、特に水泳が得意だった。

1 ・ 2	〈基礎・観察期〉	産業体験合宿で水産業界の厳しさや、海での仕事の厳しさについて学ぶが、誇りを持って仕事に打ち込む姿に感動し、自分も海で働きたいと思うようになる。
3 ・ 4	〈充実・発見期〉	「総合的な学習の時間」（キャリアプランニング）で、海上保安官の仕事のビデオを見て、仲間との信頼関係や、命がけで仕事に打ち込む姿に感動し、自分も海の安全を守りたいと考えるようになる。 将来は、海上保安官として働きたいと考えるようになる。
5 ・ 6	〈発展・伸長期〉	「かながわ次世代教養」の卒業研究では、日本海について取り組み、日本海に面したいくつかの管区の本部への訪問を通して、海上保安大学校へ進学したいと考えるようになり、入学を目指して、学力と体力の向上に努めている。 海上保安大学校へ進学し、海難救助に携わりたいと考えている。

平塚方面中等教育学校 教育活動全体図

6年間の学校生活	前期課程(中学校相当)	
	1 年	2 年
	基礎・観察期 【自己観察】	
幅広い教養と次世代を担う 人材に必要な資質・能力の育成	学習への意欲・態度の基礎づくり 【基礎・基本の学習】	
<6年間の体系的な教科活動> 「3つの力」の育成 表現コミュニケーション力 科学・論理的思考力 社会生活実践力	基礎知識と技能の習得	
	国 語	
	社 会	
	数 学	
	理 科	
	外 国 語	
	音 楽	
	美 術	
	保健体育	
	技術・家庭	
	基礎選択教科 ことばの力Ⅰ 暮らしの英語 科学実験室Ⅰ など	
豊かな人間性とリーダーシップの育成	<自らのよさの発見 他者への理解>	
<幅広い年齢構成を生かした特別活動等>	道 徳	
	総 合	
	学 級 活 動	
	○体育祭 ○文化祭 ○オリエンテーション合宿 ○産業体験合宿 など	
自らの将来を考え、社会に積極的に参画する意欲・態度を育てる教育(キャリア教育)を基盤とした教育活動	興味・関心に基づく将来への夢づくり	

後期課程(高等学校相当)				
	3 年	4 年	5 年	6 年
	充実・発見期 【自己発見】		発展・伸長期 【個性の伸長】	
	学習内容の充実・拡大 【視野を広める学習】		個に応じた学習の発展・応用 【個性に応じる学習】	
《 かな が わ 次 世 代 教 養 》				
理解の深化と課題発見			研究活動と社会への発信	
	国 語	を前期課程から学習	国 語 総 合	必 履 修 対 象 科 目 世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B 理科基礎 理科総合A 物理Ⅰ 化学Ⅰ 生物Ⅰ 地学Ⅰ 音楽Ⅰ 美術Ⅰ 工芸Ⅰ 書道Ⅰ 保健体育 家庭基礎 家庭総合 生活技術 情報A 情報B 情報C
	社 会		現 代 社 会	
	数 学		数 学 Ⅰ	
	理 科		理科総合 B	
	外 国 語		英 語 Ⅰ	
	音 楽		選 択 対 象 科 目 国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ 現代文 古典講読 古典 倫理 政治・経済 数学基礎 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C 物理Ⅱ 化学Ⅱ 生物Ⅱ 地学Ⅱ 英語Ⅱ リーディング ライティング オーラル・コミュニケーションⅠ オーラル・コミュニケーションⅡ 音楽Ⅱ 音楽Ⅲ 美術Ⅱ 美術Ⅲ 工芸Ⅱ 工芸Ⅲ 書道Ⅱ 書道Ⅲ	
	美 術			
	保健体育			
	技術・家庭			
	充実選択教科・科目 ことばの力Ⅱ 科学実験室Ⅱ 至高の数学 時事探究 中国語入門 フランス語入門 など		発展選択科目 古典精講ⅠⅡ 歴史精講ⅠⅡ 解析学特論ⅠⅡ 代数学特論ⅠⅡ 物理特論ⅠⅡ 生涯スポーツⅠⅡ 発展英語ⅠⅡ 中国語ⅠⅡ フランス語ⅠⅡ など	
	＜自己理解の深化 望ましい人間関係の構築＞		＜社会貢献への意欲 自らの役割の自覚＞	
	道 徳			
的 な 学 習 の 時 間				
／ ホ ー ム ル ー ム 活 動				
主な特別活動例				
		○合唱コンクール など		
○自己発見チャレンジ週間 ○リトルチューター研修 など		○研修旅行 ○大学・研究機関訪問、就業体験 など		
生き方・進路に関する現実的探索		将来設計の立案と社会参画への意欲づくり		

8 施設設備整備

- 大原高等学校の施設の改修により、中等教育学校に必要な施設設備などを整備する。
- 教育内容の特色や多様な選択科目展開に必要な各種の実習室、学習室の整備を行う。
- 単位制による教育展開に関する施設として、ロッカースペース、ラウンジ、ガイダンスルーム、カウンセリングルーム、情報管理室などの整備を行うほか、記念室の整備を行う。

9 教職員組織及び運営

- 中等教育学校の展開、後期課程における単位制による教育活動の展開に必要な職員配置を行う。
- 中等教育学校運営のための組織を設置する。
- 学校間連携など柔軟な学びのしくみを活用した教育展開のための連絡調整組織を設置する。

10 入学者の決定

- 志願資格 小学校等を卒業又は修了する見込みの者で、保護者とともに県内に住所を有し、入学後も引き続き県内から通学する者とする。
- 学区 全県を学区とする。
- 募集定員 1学年あたり160名（4学級）男女各80名とする。
- 選考方法 次の検査並びに資料により、県立中等教育学校の設置の目的に対応する資質・能力などの基礎的な力を測るとともに、学ぶ意欲や基礎的な学習の状況を見て総合的に選考し、入学者を決定する。
 - ① 適性検査 : これからの社会で必要とされる幅広い教養を育成していく上での基礎的な力を測る
 - ② グループ活動 : よりよい人間関係を築くための基礎的な能力及び自己を表現する力を測る
 - ③ 作文 : 中等教育学校で学ぼうとする意欲や目的意識を見る
 - ④ 調査書 : 今後の学習につながる基礎的な学習の状況を見る